

令和5年11月27日

No. 9



発行責任者

校長 有崎 美紀

自ら伸びる



府中中央小学校ホームページ <http://chuosho.fuchu-town.ed.jp>

学校の外でも「自ら伸びる」子供たち

11月3日（祝）は、緑ヶ丘中学校コミュニティスクール活動の一環として「緑中フェス」が開催され、今年度は、中央小コミュニティスクールとして輪投げコーナー等のブースを出しました。ブースの運営は、本校のコミュニティスクールサポーターさんたちの見守りの中、6年生13名が中心となって行いました。「輪投げコーナーですよ。いかがですか。」とマイクを使って呼びかけたり、小さな子にはやさしくルールを教えてあげたりと、生き生きとチームで活動していました。フェスの間、ずっと華やかな音楽が流れていたのですが、「ダンスホール」が流れた途端、6年生がブースの前に並んで踊り出すではありませんか！「ダンスホール」は運動会で踊った曲だったのですね。お客さんたちから拍手喝采を浴び、ますます呼び込みに張り切る子供たち。子供たち自身が考え、行動に移す力にあらためて感心したところです。

これまでも、10月1日（日）には、校区にある高齢者福祉施設府中みどり園が開催する「みどり園マルシェ」に6年生6名がボランティアとして参加し、大人たちに混ざって運営に携わりました。

このように、地域行事に参加する子は、他者と共有体験を重ねながら「意外と自分ではできる！」という自身の拠り所となるものが芽生え、「自分を肯定する力」が育まれていくのではないかと期待します。

地域の行事が復活しつつあります。地域のみなさんも、地域の役割を自覚しながら、「子供が育つ土壌」を一緒につくってくださっていることに感謝します。



JICA 視察団が来校されました

10月6日（金）にJICA視察団として、フィリピンやインドネシア、カンボジア、エチオピアなどさまざまな国の教育関係者が来校されました。

午前中に安芸府中高校を訪問され、1・2年生の生徒と平和をテーマに交流をされた後、本校に来校されました。日本の学校給食を体験したいとのご要望があり、本校では給食の配膳の様子を見学していただいた後、給食を試食していただきました。視察団の皆さんは、子供達に気さくに声をかけてくださり、子供達も自分が知っている英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとしていました。短い時間ではありましたが、普段あまり出会うことのない外国の方々とは出会い交流することができ、とてもよい機会となりました。



「学校へ行こう」週間

広島県では、開かれた学校づくりを推進する取組として“学校へ行こう”週間を「ひろしま教育ウィーク（11月1日～7日）」で実施しています。本校では、保護者参観・地域参観や科学研究入賞作品の展示、PTA座談会（親プロ）を実施し、自ら伸びる子供達の様子や学校の取組を公開したり、子供達の教育について一緒に考えていただく会を開催したりしました。

自由参観日

11月1日・2日・6日の3日間は自由参観を行いました。今回の授業参観は地域の方にもお越しいただきました。2校時から4校時までの自由参観でしたので、休憩時間の様子も参観していただけたのではないのでしょうか。子供達は、保護者の皆さんや地域の皆さんに参観していただき、とても張り切って学習に取り組んでいるようでした。



PTA座談会（親プロ） ～「スマホの今を知ろう」～

11月2日（木）、PTA教養委員さんが座談会（「親の力」をまなびあう学習プログラム、略して「親プロ」）を開催してくださいました。チームくすのきの方を講師にお招きし、「スマホの今を知ろう」をテーマにスマートフォンをはじめとするデジタル機器やSNSなどのコミュニケーションツールとの付き合い方について、ご参加いただいたみなさんで考えました。

スマートフォンを使ってのクラスメイトとのやり取りやネット上のやりとり、ゲームでの課金、自分の情報の公開に関わる問題点をスマートフォンの画面を見ながら考えました。また、ながらスマホによる自転車衝突事故や悪ふざけや不適切な投稿、ワンクリック詐欺やウイルスによる不当請求、ゲーム上でのやり取りから生じたトラブルについて、トラブルの被害者・加害者にならないためにどんなことに気を付けるとよいか、意見交流をしました。

スマートフォンは便利な反面、多くの危険も含んでいます。ネットトラブルの対策について、是非ご家庭でも子供さんと一緒に考え、家庭における利用のルールを見直してください。



走り方教室

広島県体育に関する指導者派遣事業の実施校に決まり、11月1日（水）に世界陸上選手権大会 400m ハードル銅メダリストの為末大さんを講師としてお招きし、6年生を対象に走り方教室が開催され、5年生も授業の様子を見学しました。

為末さんが実際にハードルを跳び越えられる姿を見て、子供達は「さすが、本物は違うな！」と驚きを隠せなかったようです。為末さんからは走り方やハードルを跳び越すコツだけでなく、努力することの大切さも学びました。とても貴重な体験ができました。



【児童の感想】

短いきよりですが、為末選手の走りを見せてもらいました。1歩がとても大きく速くて、ハードルを跳び越えるときには、とても軽やかですごかったです。これが世界3位の人の走りなんだ、レベルが全然違うなと感心しました。

広島県「みんなで減災」一斉地震防災訓練

11月9日（木）に、地震による火災が校舎内で発生したことを想定して、避難訓練を行いました。今回は、家庭科の授業サポートに来てくださっていたCSサポーターさんも避難訓練に参加してくださいました。災害はいつ、どこで起きるかが分かりません。どのような災害が起きたとしても、その時に考えられる最善の方法を選択して避難することが大切です。「自分の命は自分で守る」という意識を高めるためにも引き続き指導を行っていきます。



安芸郡小学校陸上記録会に出場しました

11月11日（土）、ミットヨスポーツパーク郷原（呉市総合スポーツセンター）陸上競技場において、第39回安芸郡小学校陸上記録会が開催され、本校からは5・6年生の児童15名が参加しました。

陸上記録会に向けて、児童は府中緑ヶ丘中学校陸上部の岩崎コーチにご指導いただきながら、陸上部の中学生と一緒に練習をしました。それぞれが自分の目標とする記録を更新するために懸命に練習を重ね、記録会当日はベストを尽くすことができました。

【結果】

（5年男子）80mハードル走	3位	藤川 煌大
（5年女子）80mハードル走	4位	戸根 碧衣
100m走	5位	戸根 碧衣
走り高跳び	7位	寄江 緋彩
（6年女子）800m走	3位	森 芽亜利



第2回学校運営協議会を開催しました

11月15日（水）に、今年度2回目の学校運営協議会を開催しました。保護者や地域の方で構成された委員さんと教職員で、授業参観の後、学校自己評価（中間報告）をもとに本校の教育活動について熟議をしたり、児童の様子について情報共有をしたりしました。今回いただいたご意見を反映し、今後の本校の教育活動がよりよいものとなるよう、問い直していきたいと思います。

【ご感想・ご意見】（一部紹介）

- ・授業で、グループの中で意見を出し合う場面があった。自分達で考えて、進めている姿が見られた。
- ・地域行事の運営を持続していくのが難しくなった。地域、保護者、学校が協働して、現状にあった持続可能なやり方を見つけていく必要がある。
- ・「子供教育」は、「親教育」でもある。相手を思いやる気持ちは、親から受け継いでいくと思う。
- ・「親の学び」も必要。そのためのツールや機会が必要であり、学校・地域・PTA・CSが連携して、ツールや機会を提供していくことが必要であるのかも。
- ・高学年の一部教科担任制は、中学校への準備期間としてよいと思う。一人の先生が教える教科が減れば、先生の負担も減るのではないかと。先生の負担が減り、先生にゆとりがないと、よい教育活動はできないのではないかと。
- ・保護者には、学級や学年が集団としてどのように伸びたかはわかりづらい。学年だよりなどで、集団としての伸びをもっと発信していったらどうか。
- ・自由進度学習は、一人一人の変容の分析表をつくることのできるくらい、教師が子供を見取ることができていないといけない。そのためのメソッドが必要なのではないか。
- ・「自ら伸びる」という目標に「はちの子の心得」や「じまんの俳句」等の取組が、どのようにつながっているのかを教師が意識することが大切。方向性や熱意をもって継続していく必要がある。

「じまんの俳句」第5回目の代表作品

今回は「いつでも だれでも 何度でも」作品を作る自由投句の2回目でした。俳句作りに挑戦してくれたのは前回は大きく上回る643人、集まった俳句は2102句でした。今回の自由投句では、生活の中から生まれた言葉がたくさんありました。自分の生活を見つめ、経験したことや感動したことの中から俳句をつくりだそうとしている児童が増えてきました。

はりついた エイのうら顔 うり二つ

六年 檜垣 優奈

修学旅行で行った水族館での発見を詠んだ句です。水族館の水槽にぴたと張り付いているエイの裏側がまるで顔のように見えたのですね。実はあれは顔ではないのですが、その様子をあえて「うらがわ」ではなく「うら顔」と表現しているところがうまいです。また、どのエイもそのうら顔が同じでそっくりであることに感動し、うまく表現しています。

はっぴょう会 セリふとふえの ニ刀流

にこにこ六組 大谷 康介

ニ刀流と言えばメジャーで活躍している大谷選手のことを誰もが思い浮かべたことでしょう。流行語にもなったニ刀流という言葉を使って学習発表会の表現で台詞とリコーダーの二つで頑張ることを表現したところが見事です。この俳句の詠み手が同じ「大谷」という名前であることも作者の意図が感じられて粋な作品になりました。

ぼたもちや あんこときなこで おめかしちゅう

一年 森井 聡太

今回は「月」や「団子」をテーマにした句がたくさんあった中、この作品は団子に焦点をあてて、しかも「あんこときなこでおめかし中」と、まるで人間がおしゃれをしているかのように表現したところがかわいいですね。人によって感じ方が違うんだということを改めて感じさせてくれました。

☆☆☆おめでとうございます☆☆☆

☆第25回筆の里ありがとうの

ちょっと大きな絵てがみ大賞

- | | | | | | | | | |
|------|----|-------|----|--------|----|------|----|-------|
| ・優秀賞 | 3年 | 大谷康介 | 1年 | 佐々木誠一郎 | 1年 | 沖川兼晟 | 2年 | 中田恵菜 |
| ・奨励賞 | 1年 | 後藤唯 | 2年 | 新谷ひまり | 2年 | 脇阪美玖 | 2年 | 上岡咲梨 |
| | 2年 | 小櫻梨愛 | 2年 | 正岡寧 | 2年 | 道方柚菜 | 3年 | 沖川柑奈 |
| | 2年 | 長谷井暖花 | 3年 | 岡野りあ | 3年 | 縄田実優 | 4年 | 蒲原諒一 |
| | 2年 | 三谷魅紅 | 4年 | 淡路拓真 | | 西村宰 | | |
| | 3年 | 鍛冶村笑那 | | | | | | |
| | 6年 | 三戸憲太 | | | | | | |
| ・佳作 | 2年 | 久保田翔喜 | 2年 | 三戸歩花 | 4年 | 中村心春 | 6年 | 八房知花穂 |

☆令和5年度第75回府中町明るい選挙啓発ポスターコンクール

- ・優秀賞 6年 安藤寛人
- ・入選 6年 金岡伊勢
- ・佳作 6年 八房 知花穂



☆令和5年度租税作品

- | | | | | |
|--------|--------|---------|--------|----------|
| (標語) | 中国税理士会 | 海田支部長賞 | 6年 | 野村大晴 |
| (絵はがき) | 公益社団法人 | 広島安芸法人会 | 女性部会長賞 | 6年 萩生田夏実 |